



〈企画展示〉

|入|館|無|料|

戦災にあった名古屋のまち

— 発掘出土品が語る戦時下の市民生活 —

約115万人の人々が暮らす昭和戦前期の名古屋市は、全国有数の工業都市で、兵器や機械を製造する軍需産業が発達していました。昭和19年(1944)12月13日から始まった空襲では、軍需工場が攻撃の対象とされましたが、昭和20年(1945)3月からの空襲は、公共施設、会社、一般住居など市街地すべてを攻撃対象とし、全焼・全壊など135,416戸、死者7,858人、負傷者10,378人など大きな被害を受けました。

今回の企画展では、市内の遺跡の発掘調査で出土した戦前期の品や戦中・戦後の焼土、瓦礫を通じて、戦災にあった名古屋を疑似体験します。



松脂採取のあと 名古屋城跡



狸の徳利 高蔵遺跡出土(熱田区)



陶製煙管 正木町遺跡出土(中区)



土人形 高蔵遺跡出土(熱田区)



被災した瓦

2021年7月16日(金) - 11月7日(日)

場 所：愛知・名古屋 戦争に関する資料館
名古屋市中区丸の内三丁目4番13号 愛知県庁大津橋分室 1階

開館時間：午前10時～午後4時

休 館 日：月曜日・火曜日(祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)
※夏休み期間中(7月21日～8月31日)は無休

主 催：戦争に関する資料館運営協議会(愛知県と名古屋市が共同で設置)



愛知県庁大津橋分室